

(臨床研究に関するお知らせ)

単形性上皮向性腸T細胞リンパ腫の移植成績

京都第一赤十字病院 血液内科では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、当院倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名

単形性上皮向性腸T細胞リンパ腫の移植成績

研究責任者

京都第一赤十字病院 血液内科 医長 栗山幸大

研究の目的

Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma (MEITL, 単形性上皮向性腸管 T 細胞リンパ腫) は小腸に好発する非常に予後不良で稀な T 細胞リンパ腫です。以前 (WHO2008 年版) までは Celiac 病を基礎疾患としない Enteropathy-associated T-cell lymphoma (EATL) II 型と定義されていましたが、WHO2017 年版から診断名が MEITL に改められました。標準治療は未確立とされており、化学療法のみでは非常に予後不良であり、海外の報告では自家移植や同種移植の有効性も報告されていますが、報告は非常に限定的であり、本邦における移植治療による多数例の報告はありません。今回、本邦における MEITL の移植治療の現状を後方視的に明らかにし、今後の移植治療成績の向上に寄与することを目的とします。

研究の方法

・対象となる患者様について

造血細胞移植登録一元管理プログラム (TRUMP) に登録されている 2000 年から 2017 年に初回の自家移植または同種移植を施行した MEITL (EATL) の方、かつ 16 歳以上の方で観察期間や生存有無が判明している方が対象となります。

・方法について

対象となる患者様の TRUMP データベースを用いて、治療経過内容について調査させていただきます。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

* 臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一

切ありません。なお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。
この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先 京都第一赤十字病院 血液内科 栗山幸大（主任研究者） 電話：075-561-1121